

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年2月16日
<p>出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子 曹琴袖（弁護士殺害事件を取材）</p>		
<p>検証テーマ：アメリカの非常事態宣言、オープニング、米朝首脳会談、三社連合、元号改正メモ クルツ首相が広島を訪問、国交省職員が盗撮の疑いで逮捕 【特集】原告が逆転勝訴！弁護士殺害事件</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの非常事態宣言 ・オープニング ・米朝首脳会談 ・三社連合 ・元号改正メモ ・クルツ首相が広島を訪問 ・最新の顔認証技術で容疑者特定 ・池江選手に音楽でエール ・藤井七段朝日杯で最年少連覇 ・信金職員殺害から14年 ・国交省職員が盗撮の疑いで逮捕 ・【特集】原告が逆転勝訴！弁護士殺害事件 ・【特集】追跡！建設残土 ・スポーツ報道 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの非常事態宣言 <ul style="list-style-type: none"> トランプ大統領が国家非常事態宣言の発動をしたこと、その時のトランプ大統領の「もし壁さえあれば軍隊を送り込む必要もない、壁さえあればだから私は国家非常事態宣言に署名する」というコメントが取り上げられ、国家非常事態宣言によってトランプ氏は議会の承認を得ることなく大統領の権限で国防総省の予算などから総額およそ80億ドルを壁の建設に充てるのが可能になるとのことが伝えられた他、国家非常事態宣言の発動例として2001年の同時多発テロ直後のブッシュ政権の対応が上げられていた。 また、今回のトランプ大統領の発表に対して与野党から批判の声が上がっているとして、アレクサンダー上院議員の「国家非常事態宣言は不必要で愚かで違憲でもある。」というコメント、ポール上院議員の「私も国境の警備強化は望んでいる、しかしそれを同実行するかが問題だ。違憲の大統領令は間違いだ、共和党でも民主党でも。」というコメント、ペロシ下院議長の「訴訟を起こすことも選択肢です。」というコメントや、カリフォルニア州ニューサム知事の「大統領自身が危機を作り上げ非常事態をでっち上げている状況ではトランプ氏に協力することはほぼ不可能です。」というコメントが取り上げられた他、シューマー上院院内総務が非常事態宣言を不法行為で大統領権限の濫用だと非難したことや、ニューヨーク州の司法長官が、権力の乱用に対して我慢せず、あらゆる法的手段を使って闘う、との声明を出しトランプ政権を相手取り近く訴訟を起こす事を発表したとのこと、カリ 		

フォルニア、ニューヨーク以外の州も法廷闘争に加わる見通しであるとのことが伝えられた。

このトピックについて当てられた時間は 145 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・オープニング：結論→特に問題なし

番組の冒頭で金平キャスターが「ええ、国家非常事態宣言とは穏やかではありませんが、そのトランプ大統領を安倍首相がノーベル平和賞候補に推薦したそうです、推薦状には日本を代表して謹んであなたを推薦します、とあったそうですが、そのようなことを安倍首相に頼んだ覚えは皆さんにはおありでしょうか。」とコメントしていた。このシーンに当てられた時間は 21 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・米朝首脳会談：結論→特に問題なし

北朝鮮の金正恩党委員長の側近で執事とも呼ばれるキム・チャンソン氏らが今日ベトナムのハノイに到着したこと、一行には先月キム・ヨン Chol 党副委員長に同行してアメリカを訪問したパク・ Chol 氏も含まれていて、今後アメリカ側と接触する可能性もあるとのこと、キム・チャンソン氏は去年 6 月にシンガポールで行われた一回目の米朝首脳会談の前にも先遣隊として現地入りしていますが今回もベトナム政府やアメリカ側と警備面などの調整を行うと見られ今月末に開かれる首脳会談に向けた準備が本格化しているとのことが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 81 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・三社連合：結論→特に問題なし

日産自動車や三菱自動車のトップらと会談するために来日していたルノーのスナール会長が今日午後、帰国の途についたとのこと、日本滞在中にスナール会長は日産の西川会長や三菱自動車の益子会長 CEO らと会談し三社連合の関係強化を確認した一方で日産との間で意見の違いが鮮明となっている日産の会長人事や資本関係の見直しについては議論を先送りにしたとのことが伝えられ、スナール会長の「日産、三菱自の経営陣とは大変いい会談ができた三社連合の未来について話し合った。」というコメントが取り上げられた。

このトピックについて当てられた時間は 65 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・元号改正メモ：結論→問題なし

九州大学名誉教授で 94 年に亡くなった目加田誠氏により昭和に変わる新しい元号として 20 を超える元号案が書かれたメモが福岡県大野城市で保管されていること、大野城市は来月からこれを一般公開することが報じられた。また、大野城市心のふるさと館の岩下剛司運営課長の「こういったことに携わられたこと、それそのものが。市としても大野城市民としても誇りでございますので改元というこの機にですね、多くの方にこういった資料を御覧いただきたい。」というコメントが取り上げられた。

このトピックについて当てられた時間は 72 秒で放送法上は特に問題は見られなかった

・クルツ首相が広島を訪問

日本とオーストリアの国交樹立 150 周年を記念して来日しているクルツ首相は広島市にある原爆慰霊碑に花輪を捧げましたあと原爆資料館を見学し展示を食い入るように見つめていたとのことが報じられた。また、オーストリアは日本が参加しなかった核兵器禁止条約で主導的な役割を果たしたとのことが伝えられたうえで、クルツ首相の「見学して悲しい気持ちになった。原爆の破壊力を思い知らされて核なき世界に向けて努力しないといけないと再認識した。」というコメントが取り上げられた。

このトピックについて当てられた時間は 55 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

- ・国交省職員が盗撮の疑いで逮捕：結論→特に問題なし

スカートの中を盗撮したとして国土交通省の職員が逮捕されましたとのこと、逮捕されたのは埼玉県越谷市に住む国土交通省の職員阪田正博容疑者で昨日午後十時頃東武伊勢崎線の越谷駅からせんげん台駅の間を走行中の電車内で帰宅途中だった高校三年の女子生徒のスカートの中をスマートフォンで盗撮した疑いが持たれているとのこと、調べに対しては「若い女の子の足を見てムラムラしてしまった」と容疑を認めているということが伝えられた。このトピックについて当てられた時間は 43 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

- ・【特集】原告が逆転勝訴！弁護士殺害事件

9 年前弁護士の津谷裕貴さんが自宅で刺殺された事件について、警察の過失を巡り遺族が国家賠償を求めた控訴審判決が今週下されましたことについて、特集がされていた。

VTR では CM で 2 つのパートに区切られ、以下に朱記したように取り上げられていた。

【パート 1】

ナレ「弁護士、津谷裕貴さんの殺人事件を巡る、国家賠償請求訴訟の控訴審判決が下される朝、」
奥さん「ようこそおいでくださいました。」

ナレ「妻の良子さんを訪ねた。裕貴さんを亡くした後、凶行の舞台となった自宅で、一人で暮らしてきた。ひろたかさんは、未明の自宅に侵入してきた男に刺殺された。離婚調停で、男の妻の代理人を務めたことを逆恨みされたのだ。」

良子さん「わたしにとってはやはり、長い時間でした。いろいろな検証とか、それからあの、するわけですが、でも、やっぱりあの、そうすると、犯人も出てくる。そのことを考えると、犯人も出てくるわけで、まあものすごく動悸がするんですね。ドキドキしたり、なんかよみがえってくるっていう」

ナレ「9 年前の 1 1 月 4 日、なぜ夫は命を奪われたのか。」

【パート 2】

ナレ「9 年前、秋田市で、弁護士 津谷裕貴さんが、刺殺された事件。その 1 か月後、妻の良子さんは、夫がどうやって殺されたのか知るために、弁護士仲間とともに、事件の状況を再現した。あの日、就寝中だった良子さんは、大きな物音で目を覚ましたという。」

良子さん「殺すとか、ベスト着ろとかっていう声が聞こえて、声がちょっと震えてて、..」

ナレ「良子さんは、すぐ 1 1 0 番通報する。」

再現「主人を殺すと言ってます。弁護士の家です。早く来てください。」

ナレ「廊下に出ると、火薬を詰め込んだベストを着た犯人の姿が。そして台所まで追ってきた犯人に、拳銃を突き付けられたという。」

良子さん「で、こうやったら、すぐバーっと来て、でなんかもうこういう感じです。」

ナレ「良子さんが犯人の手を掴むと、裕貴さんが加わり、もみ合いに。その時だった。」

良子さん「大丈夫ですかって入ってきた。3 人で警察の方を見たっていう感じなんですね。2 人顔が同時に見えまして、それで、ああ大丈夫だあってこう、こう来て、腰抜け状態で。」

ナレ「良子さんが手を離すと、警官は廊下のほうにでた裕貴さんと犯人の後を追った。そこで目にしたのは、二人の警官に両腕を持ち上げられた夫の姿だった。」

良子さん「本当になんか、行儀よく並んでいるように見えたんですね。「あっちだ」って言ったときに本当にこの

ぐらいの刃先が見えてるだけです。」

ナレ「裕貴さんらがつれ合うように廊下を走る姿を目にし、寝室を覗きに行くと、夫と犯人、警官らが折り重なっていた。」

良子さん「様子がおかしいって私その時、思ったんですね。主人の様子が。誰刺されたの？って聞いたら俺って聞こえたので・・・」

ナレ「裕貴さんは、病院に運ばれたが、1時間半後、死亡した。死因は失血死。刺し傷が左胸に2か所あった。一つの傷は心臓に向かって、もう一つは前から腹腔に達していた。事件翌日の報道、当時秋田県警は、犯人と津谷弁護士を誤認したことを認めていた。ところが後日、誤認はなかったとこれを撤回した。」

ナレ「県警は、事件の2か月後、警官がとった行動の検証結果を公表した。それによると、相次いで駆け付けた二人の警官が、拳銃を持っている男性の手を抑えた。良子さんの姿は見なかったという。そしてこの男性と女性の声で、俺じゃないあっちといわれ、手を離れた。突如、暗い応接間から別の飛び出してきたので、刃先を躲した。犯人は被害者の方向に突進し、一緒になだれ込んだという。」

秋田県警 西川直哉本部長（当時）「これ誤認とは言えないと思います。警察官が到着した時点においては、単に津谷弁護士が拳銃を持っているという現状があっただけでございますので、これをですね、優先して取り上げるというのは、警察官においてやむを得ない仕儀だっただろうと。」

ナレ「犯人を誤認したわけではなく、拳銃の暴発を防ぐため、裕貴さんの手を抑えたというのだ。夫が死に至った状況を少しでも知りたい。良子さんの依頼を受けた弁護士が、秋田県警に事件記録の開示を要請したが、認められなかった。1年後に始まった刑事裁判。遺族はようやく裕貴さんが殺害された状況が明らかにされると、期待していたが。」

良子さん「刑事裁判は、争点が決まっているので、もう完全に私がいたことさえも省かれている。目撃したことも全部省かれる。むしろ警察官の証言だけが採用される。っていうことになってしまったわけです。」

ナレ「被害者参加制度により、裁判で証言した良子さんは、被害者としての信条を表明することはできたが、事件の中身に関わる証言をすることは許されなかった。」

良子さん「最後まで、その、裁判始まるまで、私が見たことを入れてほしいということは申し上げてはいたんですけども、検察からも入れませんというはっきりした答えをいただいていたので」

ナレ「事件から3年、遺族は、秋田県警の過失や怠慢によって裕貴さんは、殺害されたとして、県などを相手におよそ2億2千3百万円を求める国家賠償請求訴訟を起こした。刑事裁判で明らかにされていない事実を確かめる方法はないか、遺族と弁護士が証拠の鑑定を依頼したのが、日本大学の押田名誉教授だった。」

押田名誉教授「やっぱり物証だからね。物が証明するんで。」

ナレ「警察が証拠として保管していた裕貴さんの衣服が遺族の基に返却された。Tシャツとスウェットの上下だ。」

男性「平成23年、了第36号フ第59号、下着ですね。」

ナレ「病院に運び込まれたときの救命措置のため、大きく切り裂かれたTシャツを、元の形に近づける。押田名誉教授は、このTシャツに残る刃物の傷の位置に注目した。」

押田名誉教授「上の方の損傷ですね。これ。こちらは下の方の損傷だと思われまして。」

ナレ「裕貴さんと体型が似た人の体に遺体の傷と同じ位置に印をつける。同じメーカーの同じTシャツを準備し、Tシャツの裂けた後から、刃物が入った場合を想定すると、」

男性「中見せて、ずれてるんだよね。それで、元に戻して。」

ナレ「Tシャツの裂けめと、遺体にあった傷がずれるのはなぜか。これは秋田地裁に証拠として提出された押田名誉教授の鑑定書だ。裕貴さんは事件当時、tシャツの上から、スウェットを身に着けていた。押田名誉教授に

よると、体が動くことによる衣服の傷は、肌身につけているtシャツは少なく、その上のスウェットは多くなるという。実験で遺体の傷の位置をシールで、衣服に残る刃物の裂けめを糸であらわしている手を下ろした状態では、シールと糸の位置は、大きくずれている。遺体の傷、tシャツの裂け目、スウェットの裂けめが重なる体勢はどんなものなのか。」

ナレ「左胸の傷は、両手を挙げた体制の時に、衣服の裂けめと重なる。もう一つの胸の真ん中の傷は、右手だけを挙げたときに、衣服の裂け目が重なるという鑑定内容だった。」

押田名誉教授「普通にたった状態で、直立不動みたいになった状態だと、絶対に損傷のこれはあの、上着と下着がありますので、これはこの損傷が絶対に合わない。ずれてる。それが両手を挙げた状態で、最初の一撃が来たとするピタッと、でそのあと、崩れ落ちた状態で、前上のほうから、心臓に向かって刺しているんですけども、それもあの、ピタッと合う。」

ナレ「県警側はこの鑑定結果について、他の体勢でも、衣服の損傷は生じうると反論した。そして」

ナレ「おとし10月、1審での秋田地裁は、この鑑定結果について、押田鑑定書をもって、原告ら主張の態様により殺害されたと認めることはできないと県への請求を棄却した。さらに秋田県警においては凶悪事件の発生が少なく、本件のような突発的な事案に対応できるだけの訓練や意識が十分でなかったことから、適切に対応することができなかつたとし、警察の責任を問うことができない。とした。」

良子さん「夫の命が、警察官の行動は仕方がなかったことやむを得なかったことで、片づけられてしまい、まとめられてしまいました。もう残念などということでは、言いようがない本当に胸が、張り裂けそうな思いです。

長男 俊さん「本当はこうだったと言ってくれば終わる話なんですけれども、まあメンツの彼らのメンツのためにですね、ずっと振り回され続けた7年間だったと思いますし、」

ナレ「判決後、すぐに控訴した遺族と弁護団。控訴審で新たに訴えたのは、警察の組織としての過失だった。事件の夜、良子さんが、夫を殺すと言っていると、110番通報した後、現場に駆け付けた警官は、防護服や警棒を身に着けていなかった。なぜなのか。」

ナレ「110番通報から53秒後、秋田県警の通信指令室から現場付近にいた機動捜査隊に連絡が入った。」

通信指令室「ケンカ口論の110番通報です。津谷弁護士この者を訪ねてきたものが、『弁護士を殺す』などと話しているという通報です。」

ナレ「ケンカ口論という連絡はどのような場合に使われるのか。愛知県警で通信指令業務に10年間携わった米内山さんはこう話す。」

米山洋司氏「隣でご夫婦がケンカやっとなんかというのは、ケンカ口論になりますし、路上でやる肩と肩とがすれ違ったケンカやっとなんかと言うのは、ケンカ口論時間的にも、早朝の4時ですね。4時台です。もうお客で来るわけでもないし、無理やり中に入ってきて、あの一殺すといつてれば、重要事件だと私は判断します。」

ナレ「現場に駆け付けた警官二人は、裕貴さんが刺された状況を見ていなかったとしている。犯人の攻撃をかわしたり、自分の腹部が刺されていないか、確認していたからだという。防護服を身に着けていても同じ対応だった。とも主張している。」

米山氏「防刃衣っちゅうのは、すぐ着れるんです。警棒も持てばできるんですよ。何分もかからんですよ。何秒ですよ。私が勤務しました愛知県では考えられないことです。」

ナレ「さらに県は控訴審で状況を把握するだけの時間はなく、できる限りのことをしたと主張した。これに対し遺族らは、仮に警察の言うような形で裕貴さんを抑えていたとしても、速やかに安全な場所に避難させられることを検証し、証拠として提出した。3秒あまりで、台所に避難させられると、言うものだ。今週、水曜日、控訴審判決が下される日の朝、良子さんは」

良子さん「夫は3秒くらいで、もう助けることができた。それに対して、どのように判断されるか。せめて本当に自分たちが見たことを話しますって言うてもらえば、それでよかったんです、私たちにもこんなにも国家賠償請求訴訟を苦勞して、あの、やることなかったのに、なぜその潔さがないか。どうしてここまでやるのかまあその一般市民をここまでね、振り回して苦しめて、何をそんなに守りたいのか、とは思っています。」

ナレ「積み上げられた証拠。判決は、仙台高裁秋田支部は、津谷さんが警官に両腕を掴まれ、身動きできない状態にあったとは、認められないとした。そのうえで津谷さんを避難させるのは困難でなかったとのべ、警官二人の保護義務違反を認定した。警察の一連の対応について、客観的に見て、失態を重ねて、最悪の事態を招いたと断罪。県などにおよそ1億6千万円などの賠償を命じる判決を言い渡した。」

ナレ「秋田県警は判決文の内容をよく精査し、弁護士らと協議したうえで、今後の対応を検討するとしている。」

俊さん「過失があるということ今回認めてくれたわけですがけれども、裏を返せばですね、どの場面でも救えたということです。それを思うと、本当にやはり、警察の過失が認められて、今後同様の事件がですね、減ればいいなとは思いますがけれども、今申し上げた通り、どこでも救えたんだと思うと、やはり悲しい気持ちになりました。」

"記者「津谷先生は今の良子さんにどんな言葉をかけると思いますか。」

良子さん「よく頑張ったと言ってくれてると、思います。あの一私は、たぶんそういつてくれるくらい、私たちも、よく頑張ったとは思っています。」"

VTR を承けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り返された。

膳場「取材にあたった曹記者です。控訴審では、県警の対応が厳しく断じられましたけれども、あの津谷弁護士がね、警察官に誤って取り押さえられていたのではないかというこの点については、どんな判断が示されたんでしょう？」

曹記者「はい判決では、原告が一貫して主張してきた、津谷さんは警察官によって身動きできない状態にされていたために、殺害につながったんだという部分は認めなかったんですね。しかしあのそれ以外の部分では、警察官が現場で適切な行動をとってれば、犯人を静止したり、津谷さんを安全な場所に避難させることができたとして、警察官の過失を認める判決となっています。」

日下部「それにしてもですね、事実を明らかにすべく行われる裁判においてですね、第一通報者であり、しかも現場の目撃者である奥さんの良子さんの証言が全く取り上げられないというのは、これはどう考えてもおかしいようなきがするんですけどね。」

曹記者「そうですね。あの警察にとって不都合な状況がある中で、事実をどう認定していくかっていうことですよ。あの殺人事件など、刑事事件の事実というのは、警察官が調べ、警察官が証拠を提出し、その刑事裁判によって認定された事実が事実となるわけですね。あの現場にいた警察官と被害者の証言が異なる場合、どのように事実を認定するかというのは、大きな課題だと思います。」

金平「あの長期裁判でですね、原告家族も非常に苦しんだ末での勝訴だというように思うんですけども、今後なんですけどね、えー秋田県あるいは警察側というのは、上告する意向なんでしょうか。」

曹記者「あの一県はですね、まだ態度を明確にしていないんですね。ただ遺族ら原告側は、訴訟の長期化は望まないとして、上告はしないとしています。あの、凶悪事件の被害者遺族は、事件から遠ざかることで、癒されていく、事件を忘れていくことで、立ち直っていくんですけども、あの裁判の長期化というのは、その事件の記憶をただ、上書きする時間になる。そういう意味で秋田県警、県の判断を注目したいと思います。」

この特集に当てられた時間は秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・オープニング

金平キャスターは「ええ、国家非常事態宣言とは穏やかではありませんが、そのトランプ大統領を安倍首相がノーベル平和賞候補に推薦したそうです、推薦状には日本を代表して謹んであなたを推薦します、とあったそうですが、そのようなことを安倍首相に頼んだ覚えは皆さんにはおありでしょうか。」とコメントしていたが、今回のトランプ大統領へのノーベル平和賞推薦に限らず、政府の首班が「日本を代表して」という枕詞を用いることは多々あり、それは頼んだ覚えのないことであるということが少なくない。これはある種の儀礼的文言だと思うが、金平キャスターが今回、特に指摘しているのは相手がトランプ大統領だからなのだろうか。